



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/kamoi/>

かもい

横浜市立鴨居中学校

学校だより8月号

令和8年8月27日



鴨居中学校 note

世の中を支える人

校長 長島 和広

夏休み期間が終わり、学校が再開しました。久しぶりの学校での生活はいかがですか。もしかしたら緊張しているかもしれませんね。私も集会でみんなの顔を見るまで不安がいっぱいでした。みんなが元気かな……学校に来てくれるかな……、夏休みの終わりが見えてくるといつも感じる気持ちです。

さて、夏休みの期間中は自分の時間を上手く使えましたか？何か新たな発見ができましたか？発見というより、新たな気づきといった方がいいのかな。どうでしょうか。

3年生は、部活動の最後の大会に臨んだ人も多かったのではないのでしょうか。今年は、県総合体育大会が横浜開催であったこともあり、市内各所で県大会が行われていました。一つひとつの大会が、多くの先生たちによって運営して行われていました。これは市大会でも区大会でも、文化部でも同じです。顧問の先生だけでなく、競技ごとの専門部の先生たちが手弁当で皆さんの活躍できる場を作ってくれています。支える人が場を作り、その中で活躍できるのです。

地域の夏祭りには、参加しましたか？きっとそこにも運営を支える人がいて、その場が作られ、みんなが楽しめたのではないかと思います。

7月の終わりに札幌へ行く仕事がありました。その日は、夕方から激しい雷雨に見舞われ、羽田空港への到着便が着陸できない、地上作業ができないことから、ダイヤが乱れていました。私が乗る便もいつ飛び立つかわからない状況でした。出発カウンター近くで座っていると一角でキャビンアテンダント(CA)の人たちが10人くらい集まっているのが見えました。搭乗する便が遅れている中で、さまざまな打ち合わせをしているようでした。リーダーの人がアルコールの呼気チェックをすることを指示したり、身だしなみのチェックを指示したりと仕事の裏側がちょこっと見えて、新鮮に感じました。チームで仕事をしているのだなと思いました。搭乗する飛行機がスポットに入ると荷物を移動する人、翼の下で燃料を入れる人、胴体の後ろで給排水をしている人……多くの人が飛行機の周りで働いていて興味深く眺めていました。ひとつの便が飛ぶためには多くの人に支えられているのだと実感しました。きっと見えない所、例えば管制塔やバックヤードでも、働いている人がいるんだろうなと思います。

世の中は多くの人に支えられて成り立っています。皆さんもそんな視点で周りを見てみると良いかもしれません。自分が大人になって、どうやって社会を支えるのか…自分がやりたいことで支えられると良いですね。いろんな役割があります。広い視野が大切ですね。



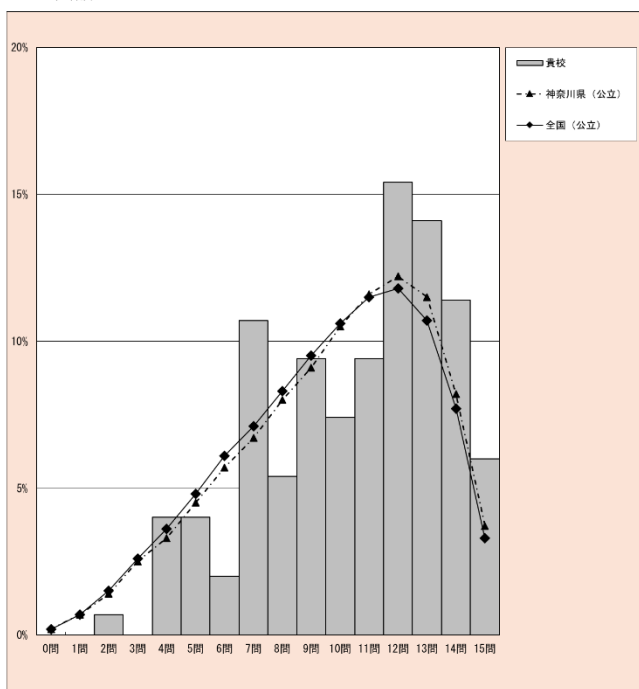
3年全国学力・学習状況調査の結果



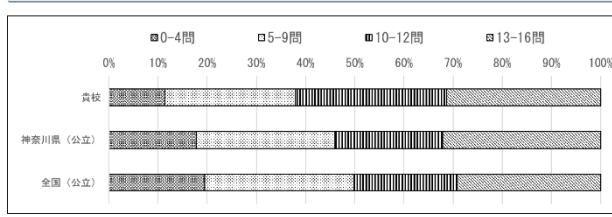
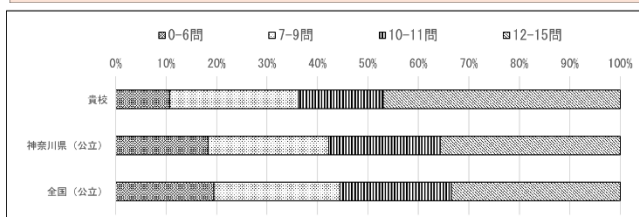
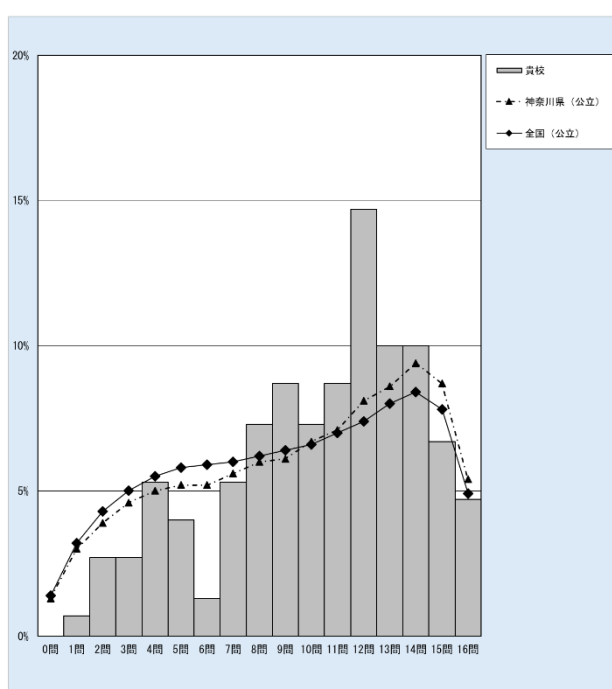
4月下旬に、3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。例年の国語・数学に加えて、3年ぶりに英語が調査対象になりました。英語については「読むこと」・「書くこと」・「聞くこと」の3技能に加えて、本校では「話すこと」の調査対象となっています。1人1台端末を使ったC BT方式で実施されました。8月上旬、文部科学省・国立教育政策研究所から結果の公表が行われましたので報告します。なお、英語については、今回は3技能での結果報告です。「話すこと」調査を加えた4技能の調査結果は9月以降に公表される予定です。

	国語		数学		英語（3技能）	
	平均正答率(%)	標準偏差	平均正答率(%)	標準偏差	平均IRTスコア	標準偏差
横浜国立大学付属横浜高等学校	70	3.1	64	3.7	550	111.1
神奈川県（公立）	65	3.3	59	4.4	525	117.9
全国（公立）	63.9	3.3	57.0	4.5	499.0	113.7

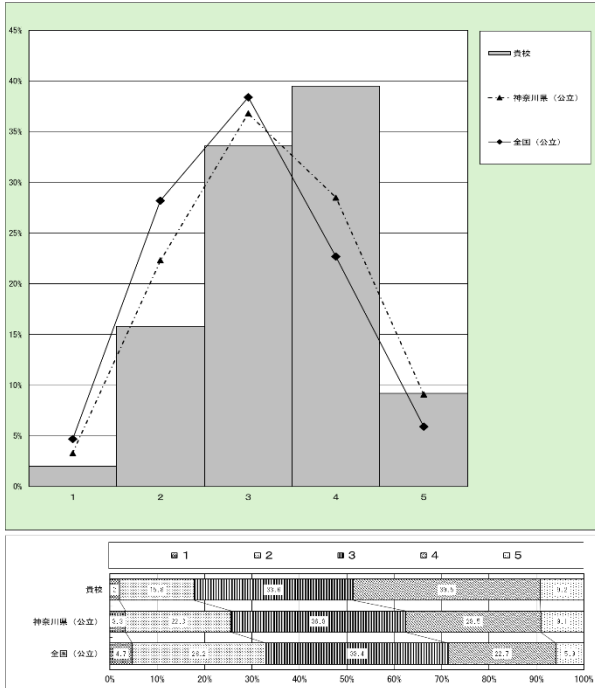
国語



数学



3教科とも全国平均を上回っています。正答数の分布を見ると学力下位層が少ないことが分かります。しかしながら、1割ほどの生徒が中学校の学習を理解していないことも分かります。どんな問題が理解できていないかについても教科で分析し、授業でフォローします。



右の問題は全国で課題ありとされました。本校では、正答47.7%／無解答10.1%です。全国比では+8.8ptで、無解答も8.5pt低く、全国課題に対して本校は比較的良好です。ただし、本校でも52.3%（誤答42.2%、無解答10.1%）が完全正答に至っていません。半数程度の生徒には、今後も指導が必要な状況です。

英語については、生徒によって解答した問題が異なります。そのため正答数ではなく、バンドという階級の尺度で結果が表されています。4・5のバンドに入る生徒が多くいることが分かります。

中学校国語 大問4四

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。

条件①〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。

条件②「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

正答例

正答率

39.3%

誤答例

○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

条件①は満たしているが、②を満たしていないもの …35.1%
●「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。



擬態語の効果について自分の考えを述べようとしているものの、本文やそこから得た理解に基づく記述が不十分な生徒がいた。

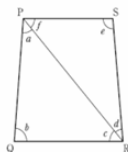
「令和8年度全国学力・学習状況調査結果（概要）ポイント」より

中学校数学 大問3

2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題

四角形PQRSにおいて、PS//QRを示すための根拠となる二つの角を書く。

③ 下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、PS//QRであるといえます。その2つの角を書きなさい。

正答

正答率

49.6%

誤答例

$\angle c$ と $\angle f$ を解答しているもの

① $\angle b$ と $\angle e$ を解答しているもの …24.2%

② $\angle a$ と $\angle d$ 、 $\angle b$ と $\angle e$ などの対応関係にはない二つの角を解答しているもの …20.3%



2直線が平行になるための条件を理解し、2直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき二つの角を見いだすことに課題がある生徒がいた。

左の問題は図形の基礎的な問題であるのにも関わらず、全国で課題ありとされました。本校では、正答57.3%／無解答0.7%です。全国比では、+8.2ptで無解答も2.1pt低く、全国課題に対して本校は比較的良好です。ただし本校でも約4割が誤答し、図形領域の基礎が定着していないことが明らかになっています。図形領域では、大問8の証明が全国-6.1pt、県-10.1ptと本校の弱点となっています。

(2) 前ページの手順で作図した $\angle POB$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであることを証明します。図1は、手順の④の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ は手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図1

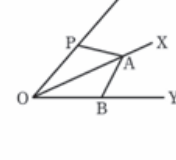


図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ である。

上のことがらが成り立つことは、 $\triangle AOB \cong \triangle AOP$ を示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

今後の授業でフォローすることにします。

英語については、4技能の調査結果が公表されてから報告します。

横浜市教育課程委員会研究協議会

8月18日～21日までの4日間、横浜市教育課程委員会研究協議会が市内各所で開催されました。これは、横浜市立学校の教職員がこれからの学校教育をどのように進めて行くのか、教科等ごとに委員提案をもとに協議をする教職員の会議です。多くの教職員が、会場、オンラインで協議に参加し、学びました。

18日開催の総則部会では、本校3年池田雅史さん、板垣穂香さんの2名が子ども実行委員として協議会に参加し、生徒の立場から「学びに夢中になるとき」というテーマで発言しました。子ども実行委員会は各校種2名ずつの8名で構成され、本校生徒は中学生代表という立場で発言しました。授業で夢中になるときはどんな時？といったファシリテーターの質問に子どもたちの様々な声が寄せられました。発言メモを右にまとめました。子どもたちの発言を受けて、その後の教員の提案に対する協議も、子どもの声は、こんなだから、自分たちの学校経営、授業はこうした方が良いのではないかとといった子どもを主語にした議論がなされました。

会議のあと、下田教育長から一人ひとりに表彰状が渡され、記念写真を撮りました。

本校からは、総則部会、個別支援学級部会で教員が本校での実践を提案しました。

子どもたちの声から考える『学びに夢中になる』とは

横浜市教育委員会 教育課程協議会 総則部会／子ども実行委員会の発表より

1 夢中になるとき

- おもしろい・不思議だと感じる
- 好きなことを追究できる
- もっと挑戦したくなる
- 自分で決めて自由に表現できる
- 体験しながら学べる
- 成長や上達を実感できる
- 自分の得意が見つかる
- 人や社会とつながる

2 具体的な「夢中」の場面

- 理科の実験
- 歴史の裏話から、授業後に自分で調べた
- 好きなことを選べたとき
- 生徒会・学校行事
- 部活動（軽音部・バスケット）
- カッコイイ大人との出会い
- ピアノやカポエラへの挑戦
- 美術で作品づくりに没頭

3 夢中になれなかったこと

- 「将来に役立つのかな」と感じる学び
- 嫌いな教科・苦手な教科
- 興味をもちにくい文章や内容
- 授業の中の意欲差で、学びの雰囲気が上がらない
- 一方的な授業では、夢中になりにくい

4 学びに夢中になるために必要なもの

- 自由（自分で目標を立てる／表現を運べる）
- ゲーム性（クイズ、Kahoot! など）
- 達成感とインパクト
- 「小さな疑問」から始まる探究
- やる気と好奇心
- 学び合える環境・雰囲気
- コミュニケーション
- 「好き+苦手」を交互に学ぶ工夫

5 これからの学びへの示唆

- 「分かる」を支える個別の学び（例：パワーアップ）
- 外国につながる子にも、もっと分かりやすい支援
- 学ぶ意欲の差を埋め、安心して参加できる授業づくり
- 夢や目標につながる学びが大切

6 夢中になる要因

- 好き・達成感
- 疑問・不思議
- 仲間との関わり
- 子どもの「やりたい」「やってみよう」を引き出すには？
- 選べる余地をつくる
- 「なぜ？」を大切に
- 体験・対話・挑戦を増やす
- 夢や社会とのつながりを実感できる学びにする

夢中は、与えられるだけでなく、自分で見つけていくもの

子どもの声を聞くことが、学びを見直す原点



9月の主な予定

- 8月27日～31日 教育相談
- 8月28日 横浜子ども会議(@中山小)
- 9月1日 総合防災訓練
- 9月6日 地域防災拠点訓練(白山地区)
- 9月10日11日 前期期末テスト
- 9月25日 3年英検1次

☆スクールカウンセラー来校日は、**月曜日・水曜日**です。
申し込みは、副校長・生徒指導専任まで

地域防災拠点訓練

9月6日(日)に本校で白山地区地域防災拠点訓練が開催されます。(10:00～12:00)

非常災害時、本校が避難所となる場合に備えての地域の訓練です。災害時下水直結式仮設トイレや緊急給水栓の設営を体験することができます。生徒・保護者の方で、まだ、ご覧になったことがない方は、ぜひ一度参加してみてください。

午後は防災講座があります。詳細は、<https://hakusan-saruyama.com/>

